

ひびきジャーナル



編集／発行 特定非営利活動法人 純正律音楽研究会

〒106-0031東京都港区西麻布2-9-2 Tel 03-3407-3726 Fax 03-3797-5640 e-mail:info@pure-music.ne.jp

倍音には人を癒す力がある

-対談-
玉木宏樹の
この人と響き合う

音楽プロデューサー
磯田秀人さん

「音楽の何が人を癒すのか」をテーマに音楽制作に取り組んできた磯田秀人さんが、倍音の発生するクリスタル・ボウルを使ったCDを制作したとのこと。広がる倍音ブーム、ますます火がつくのか？夏の午後、玉木宏樹とともに倍音談義に花を咲かせました。

クリスタル・ボウルとは

玉木 今日ではクリスタル・ボウルはもってきてくれたの？

磯田 いやいや、割れちゃうからそう簡単には持ってこれないんですよ。重くはないんですけどね。かさはあるし。

玉木 クリスタル・ボウルというからには、水晶でできているんだよね。最初、「BALL」で、丸いのかと思ってたけど、「BOWL」なんだよね。

磯田 そうですね。料理に使うボウルのような形で、厚さは3ミリくらいです。水晶を粉末にして、型にいれて、四千度位で焼いたものです。

磯田秀人（いそだひでと）
一九四八年東京生まれ。大手レコード会社を経て、現在は株式会社ピンポイント代表取締役社長。ジャズシンガー綾戸智絵公式ファンクラブ「綾戸倶楽部」も運営。

玉木宏樹（たまきひろき）
一九四三年生まれ、神戸市出身。東京芸術大学ヴァイオリン科卒業。純正律音楽研究会代表。作曲家・ヴァイオリニスト。

玉木 (写真をみながら) みた
めもきれいだね。

磯田 元々は白濁食です。最近
は他の石も混ぜて、色合いのき
れいなものもあります。

玉木 どんなふうに演奏する
の？

磯田 叩いて振動したところを
マレットでこすります。

玉木 調律はどうなっている
の？

磯田 基本的にはピタゴラス音
律です。ちゃんとした音程のも
のを作るのもたいへんらしいで
す。

玉木 いろんなメーカーがある
んですか。

磯田 アメリカに3、4社メー
カーがあります。クリスタル・
ボウルは、元々コンピューターの
シリコンチップを入れる入れ物
だったんです。それを見たヒー
ラーが、いい音がする、と楽器
がわりに使い始めたのです。

玉木 へえ。クリスタルは握っ
ているだけで効果がある、なん
て言われるものね。

磯田 パワーストーンですから
ね。今日はCDを持ってきたの

で、聴いてみましょう。三曲で
一時間少し、一曲目と三曲目が
クリスタル・ボウル、二曲目は
シンキング・リンの演奏です。

(CDを聴きながら)

玉木 最初の音、純正の長3度
がちゃんと出ていますね。自然
のハーモニクスが出ている。ク
リスタルは純度が高いからきれ
いに出るんだね。これ、空気振
動そのものが伝わるから、叩い
ている現場で、すごく効果ある
と思う。シンキング・リンとい
うのは、原理的にはチベット
系？

磯田 はい。これは日本製です
けど、元々はチベタンボールと
同じです。

玉木 磯田さんは、十人のトロ
ンボーン奏者によるCD (※)
はお聴きになつていますか。

磯田 ええ、昔玉木さんから教

えてもらって持ってますよ。

玉木 あれと原理的に似てると
ころがあるね。延々響きがある
ところがね。

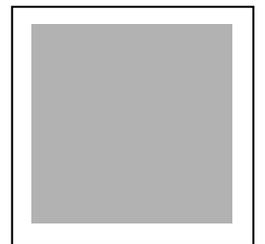
磯田 このCDでは、何種類も
のクリスタル・ボウルを使っ
ています。共鳴するとまた響きが
ちがってきます。今回は他の楽
器は使っていません。牧野さん
が演奏する時は、ホーメイっぼ
い声を出したり、他のエスニツ
クっぽい楽器を入れることもあ
ります。アメリカで作られる
クリスタル・ボウルの作品はよ
くシンセサイザーやピアノが入
ったりもしていますけどね。
玉木 そんなことしない方がい
いよ。ああいうことをやるのは、

クリスタル・ボウル演奏家 牧野持侑さん

CD「倍音浴～エコー・オブ・サイレンス」
演奏 牧野持侑 (まきのじゅん) 【PCD-001】

1 Echo of silence (part1) 33 : 35
2 Singing Rin ~Heaven & Earth 11 : 07
3 Echo of silence (part2) 17 : 48

2005年10月25日発売
価格2,800円(税込)
お問い合わせ
株式会社ピンポイント
電話 03-3755-0073
HP www.pinpoint.ne.jp



ピアノから入ってる作曲家なの。
ピアノは音もたないから、が
んがんコード変更したがる。洋
の東西を問わないね。やたら経
過コードいれるより、ちゃんと
したドミソが響いてる方がきれ
いなのにね。
クリスタル・ボウルの何種類
か整合性のある倍音のものと、
ヴァイオリンでアドリブやると
曲になりますね。それか、三味
線の一の糸が「さわり」ってい
うんですけど、あれと一緒にや
ったらおもしろいかも。

(※) Dempster
「Underground Overlays
from the Cistern Chapel」

磯田 倍音シリーズで、他の倍音楽器とやってみたくて思っています。この一枚目が採算取れたら(笑)。

倍音との出会い

玉木 磯田さんは以前、大手レコード会社にいらっしやいましたよね。

磯田 ええ、やめて三十年位になります。

玉木 いつ頃から倍音関係にめざめたの？

磯田 倍音については、去年、牧野さんのライブを人から薦められてみたことがきっかけです。

その時、2か月悩んでためまいが治ったんです。「良性発作性頭位めまい症」っていうんですけど、朝起きたとき、夜寝るとき、頭の位置を変えるとぐらぐらするものです。病院行って検査をうけたんですけど、治療法がなく、時間が経てばそのうち治る、といわれただけで。でも、二ヶ月経っても治らなかつた。それが、牧野さんのクリスマス・ボウルのライブを聞いたら、次の日、物の見事にめまいがと

まって、びっくりしました。もう聴いているときから、めまいに影響しているな、と予感がありましたけど。頭の中が音で飽和状態になっていくのがわかるんですよ。

これはどういうことかと驚いて、牧野さんに連絡をとり、彼の南伊豆の工房を訪ねました。そこでは、ライブとはまた違う、お腹の上にクリスタル・ボウルをのせて響かせるバイブレーション・ヒーリングというのを体験しました。これもともかく癒しの効果がありました。

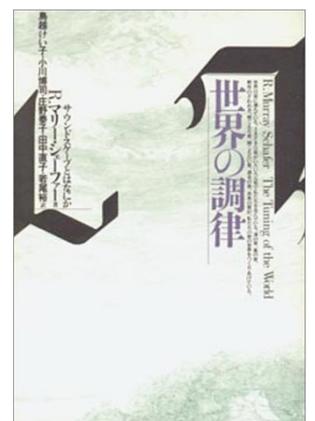
そこで、これをCDにしたい、と思いましたが、CDに入れても、そういう効力があるのか疑問で、脳波の専門家に依頼し、クリスタル・ボウルの音をCDと生で聞いたときの脳波を測定しました。確実にCDでもアルファ波が出ていました。クリスタル・ボウルの音は、録音でも生でも前頭葉にアルファ波が出る。通常アルファ波は後頭部に出るんですが、前頭葉にアルファ波が出るといのは、禅寺の僧が瞑想するときなどそうなる

らしいです。前頭葉は身体のコントロール機関ですから。クリスタル・ボウルの音は、そこに影響しているから僕のためにも治ったんだな、と思いました。強引な結論なんですけど。

玉木 なるほど。

磯田 私は二十年前くらいから、音楽の何が人を癒すのかということ、ヒーリングミュージックに興味を持つようになりました。その頃出会ったカナダの作曲家でエコロジストのマリーシェーファー「世界の調律」という本がとてもショックで。シェー

ファーは、産業革命以後世の中はノイズだらけ、もういちど地球を調律しなさいねば、と言っています。ただ、自分としては、地球を調律するより前にまず自分を調律する、ってことがテーマじゃないかと思って。やはりその頃出会ったマクロビオティック、玄米食、有機農法無農薬食品というのも、体を調律することだと思っています。また仕事の関係でクラシックを聴いて、モーツァルトにはまって、古楽器を知り、純正律を知り、そし



「世界の調律」(テオリア叢書)
R.マリーシェーファ著

てクリスタル・ボウルに出会い、人を癒す力の根源は倍音にあるという考えに二十年かかって至りました。このCDは、その中間報告のようなものです。

倍音の仕組み

磯田 倍音がヒーリングの要素であるって、いろんな本よんで、あまり書いてないように思っています。玉木さんの本には書いてありましたけど。一般の方に「倍音」を説明するのはどうすればいいんでしょう。

玉木 とにかくクリスタル・ボウル聴いてください、と言えばいいんじゃないでしょうか。ひとつの音じゃないのがわかるでしょう。

磯田 でも、それでもわからないといわれた場合は？

玉木 逆に一つの音と比べればわかるよ。NHKの時報のよう
な。

磯田 どんな音でも自然音であ
れば倍音が含まれるんですよね。
玉木 そうですね。倍音のない
音はない。

磯田 倍音の成分によって音の
個性がかわる、音質がかわるっ
てことですよ。

玉木 そうですね。これ、こん
な大雑把な書き方しかしていな
いけど。倍音ってこんなもので
す。

(溝部国光「正しい音階」(日本
楽譜出版)の「自然音列表」を
みながら、音程を調整できるハ
ーモニートレーナーを奏いて説

「自然音列表」

溝部国光「正しい音階」日本楽譜出版 P.41

明)

玉木 七度をいれた属七のドミ
ソシ♭が、平均律の場合はこう、
これは聞き慣れていきますよね。
わーわーと唸って聞こえます。

倍音の第七倍音をいれると、全
然違ってきます。平均律だとう
ねりがすごいですが、倍音の七
度だときれいにきこえます。こ
のシ♭は平均律よりずっと低い
です。

磯田 全く違いますね。

玉木 倍音の近いところを一緒
に鳴らすときれいなんです。純
正律も倍音を並べたようなもの
です。純粹倍音で並べた音は、
平均律とは全く違う。ハーモニ
ックという倍音の音階です。ブ
ルースハープのシ♭がこの倍音
の第七倍音です。

CDの限界？

玉木 ソニーから日本で初めて
の純正律のCD「ピュア・スケ
ールによる理想的ストレス解
消」を出したとき、ディレクタ
ーが、トロンボーンやっている
人で、純正律のこともよく理解
していた。その人が、全部録音

が終わってから、前々から気
なっていたことがある、と言っ
て、ひとつの実験をしました。

デジタルテープレコーダーとア
ナログテープレコーダーで純正
律と平均律を録音して比べたの
です。そうすると、アナログは、
濁りと透明な音とのコントラス
トがものすごくはっきりしてい
るのに、デジタルは、もわっと
していて切り替えたときの衝撃
が少ない。そしたらそのディレ
クターは、「これなんだ、デジタ
ル録音の悪いところは。ばれた
らまずいから、人にいわないで
ね。」って(笑)。

磯田 デジタル録音は四四・一
キロヘルツで高音がカットされ
ている、それがCD規格で、音
楽業界のシステムがそうなって
いますからね。CDにすると倍
音のおもしろさがなくなっちゃ
うってことですかね。

玉木 モニタからでる音は全部
四四・一キロヘルツでカットさ
れている。九六キロヘルツのも
もあるけど、幅の違いだよね。
高音がカットされていることに
はかわりない。ただ、モニタを

楽器にたとえると、耳に到達す
るまでに、でてきたものがさら
に空気と振動して、高倍音を発
すると思う。でも、四四・一キ
ロヘルツでカットしているから、
その分平均律が救われている面
もあるだろうね。クリスタル・

ボウルはやはり実演が見たいな
あ。空気そのものの振動も含め
て体験できる場所できたいね。
磯田 そうですね。最近、倍音
って若い人達も興味を持つ人が
多くて、反応もいいんですよ。

玉木 うん。たとえば巻上公一
さんのホームイのイベントをみ
ていてもそう思うよ。

磯田 楽しくイベントにいつて
いる感じがします。純正律、倍
音、と難しいことは言わないで、
楽しく聞く、まずはそれでいい
ですよ。

玉木 こんど純正律音楽研究会
の企画に牧野さんに出演しても
らって、コンサートをやりたい
ね。

磯田 よろしくお願ひします。
クリスタル・ボウルの倍音を体
験できる新企画が浮上。今後の
展開をお楽しみに！

純正律と邦楽

【後編】

純正律音楽研究会代表

作曲家・ヴァイオリン奏者

玉木宏樹

邦楽は倍音の宝庫

まさに邦楽の世界は倍音の宝庫である。倍音というのは、自然界のすべての音にあって(倍音のない人工的な音はNHKの時報の音)、基音で聞こえる音の高さに必ず付随している整数倍の高さの音であり(譜例1)、この倍音成分の微妙な違いで、人それぞれの声の性質が決まる。ギターをやってる人ならハーンモニック奏法を御存知だろうか、このハーンモニックスで出る音が倍音である。弦楽器の場合、すべての楽器はハーンモニックスが出る。ヴァイオリン、チェロ、ハープ、ギター、お箏、三絃、みんなきれいなハーンモニックスが出る。ピアノは鍵盤で音が固定されているので、直接ハ

譜例 1

(溝部国光「正しい音階」
日本楽譜出版 P.41)

ハーンモニックスは出ないが、ジョン・ケージはピアノの中の絃に異物を挟むことにより、ハーンモニックスが出るように工夫した、プリペアードピアノという奏法まで編み出ししている。最近はやりのホーメイ(ホーミイともいう)の一人二重唱というのは、自分の声のハーンモニックス唱法で、基音上の倍音をより分け、口や喉の容積の変化により、高い倍音を聞こえるように出す唱法である。こういう倍音を意識して、楽器に取り入れたのが、琵琶であり、三味線のサワリであり、ルーツはインドのシタールではないかと思われるが、この琵琶や三味線のサワリのような音は西洋の楽器にはない。根っから洋楽が最高という偏見にとらわれている人達にとっては騒音としか思えないかもしれないけど、このビヨーンという音の快感は、口琴に似ているとも言える。純正律の原理はこの倍音を音階に並べかえたものであり、本調子でも二上がりでも一の糸のサワリによって完全4度、完全5度が明瞭にわかり、調絃もたやすい。しかし、邦楽器の音階はピタゴラス音律なので、サワリに含まれている長3度が活かされていない。尺八もまた倍音の宝庫であり、「むら息」の強烈さは一度に沢山の倍音を発生させた結果である。箏の場合、サワリのような工夫はないが、六段でも見られる半音のぶつかりはたぶんサワリを意識しているのではないだろうか。このように倍音の宝庫である邦楽器には不思議と確たる音程の位置決めがない。ピアノのような固定性、ギターやマンドリンのようなフレット、これは邦楽器にはない。箏では琴柱で音決めはするが、一曲内でもしよつちゅう位置を変えている。そしてうたもので

は長唄等は比較的音程は決まってはいるようだが、洋楽の音楽のようでは全くない。特に義太夫の語り口は、太棹の強力なサワリの中を泳ぎ回っているともいえよう。しかし確律はちゃんと存在する。なぜか、古代ギリシャと同じピタゴラス音律である。邦楽と古代ギリシャ音楽の相似いろいろな所で紹介したり、説明したりしているの、ここでは詳しくピタゴラス音律のことは説明しませんが、中国で言う二分損益法や日本では順八逆六といわれる調絃法がピタゴラスと全く同じであり、この方法は世界中に広く分布しており、別にはピタゴラスが発明して広げたのではなさそうだが、実は古代ギリシャ音楽と日本の旋法は驚くほど似ている所がある。古代ギリシャの旋法は上から下へ下がるのが基本で、ふたつの完全4度の連結でオクターブを構成する。上の「ミ」から「シ」へ完全4度下がるのを基本に直結してもうひとつ4度構成するのが直結型で譜例2となる。直結せず連結するのが譜例3となる。古代ギリシャの笛、アウロスの名手、オリムポスはこの基本型から長3度と半音の形のメロディを非常に得意とし、直結型、連結型のメロディパターンを使った(譜例4・5)。これはそれぞれ、箏曲の平調子と雲井調子と同じである。古代ギリシャに残る数少ない楽譜を解読した「デルフォイのアポロン讃歌」は5線譜にする、譜例6・7となり、非常に日本の陰旋法に近い。私はこのふたつのメロディ形のもとに、三絃、箏、十七弦のための「デルフォイの風」という曲を作ったが、このメロディ形は全く違和感なく、ここが古

代ギリシャのメロディだよ、と言ってもなお、みんなきよんとして、ギリシャのボルボウダキスという若い作曲家が、私と同様に日本の古楽とギリシャ古楽の相似性を研究するために来日し、話しをしたが、もっと掘り下げていくべきテーマだと思っっている。また新しい成果があったらお知らせしたい。

譜例 2

譜例 3

譜例 4

譜例 5

譜例 7

「音の余韻を積み重ねる。時を積み重ねる。」
大切な時間の演出として幸福な時を演出する純正律のハーモニー

ニューミネラルサウンドクロック

価格 税込 126 万円 (本体 120 万円)
H1300×W400×D210
ステレオ出力フルレンジスピーカー×2 基
問合わせ リズム時計工業株式会社
お客様相談室
おフリーダイヤル 0120-557-005
土・日・休日を除く 9:00~17:45
収録曲: メロエト・歌の翼に・埴生の宿
愛の喜び・ケルト・グリー・ジュード・故郷
ブルー・ムスの子守唄・ヘイ・ジュード・家路・聖夜
アニメーション・夕焼け小焼け・家路・聖夜

二〇〇五年六月八日、リズム時計工業の「プレスティックロックコレクション」が赤坂プリンスホテル旧館にて開催されました。二階の展示場に入っすぐの所に展示されているのが、純正律音楽を奏でる「ニューミネラルサ

ウンドクロック」。従来のミネラルサウンドクロックを改良したもので、この美しい音色に、訪れるお客様も皆さん足をとめての大盛況。この新製品について、販売企画に携わるリズム時計工業株式会社の中山秀嗣さんにお話を伺いました。

* * *

リズム時計工業株式会社は、純正律を最大の特長とする「ニューミネラルサウンドクロック」を九月二〇日より発売します。一九九八年に誕生以来、多くの方に愛されてきたミネラルサウンドクロックをリニューアルしました。オーケストラの純正律による伴奏

と、十四本の棒鈴の実音が奏でる音色が心をリラックスさせます。

ミネラルサウンドの命である「音に対するこだわり」を更に追求するために、バックグラウンド音源は、IC再生回路による新方式とし、新設計の実打ち機構の採用とあわせて、音質と音圧の向上を図りました。

また、デザインもシンプルなフォルムを採用し、格調高い北欧家具をイメージした木枠と、ソリッド感がある金属枠が相まって、インテリアとして十分通用するクロックが生まれました。

時計部人形は、シャープでモダンな外装との調和を考え、ダイナミックなアールデコ様式のデザインに仕上げました。時計部の材質はステンレス製、本体素材は、メイプル材を使用し、確かな質感を実現しました。

発表後、たいへんな反響を呼んでいます。これからもニューミネラルサウンドクロックを通じて、純正律の美しい音楽が広がっていくことと思います。

* * *

リズム時計工業の製品の中でも、最も音楽性を重視したこのミネラルサウンドクロック、このプロジェクトを担う中山さんも、たいへんな音楽通です。一九九〇年にリズム時計工業福岡支店に入社された中山さんは、ミネラルサウンドクロックプロジェクトの社内公募に応募、一九九八年に本社に移り、ご自身の音楽経験を踏まえながら、このプロジェクトを精力的に進めてきました。

「音楽好きの父からの影響、また『シカゴ』のブラスロックに衝撃を受け、中学生から大学まで、ブラスランドでトランペットをやっていました。」という中山さん。社会人になってからもオーケストラ活動に積極的に参加し、現在は、佐倉フィルハーモニー管弦楽団に在籍。地元学生ブラスバンドの指導などでも活躍されています。愛用のトランペットは親交のある楽器製作者によるもの。こだわりの音色はお見事。中山さんの音楽活動についての玉木宏樹との対談を次号お送りします。

リズム時計工業株式会社
中山秀嗣さん

オーケストラでのミントーンの魅力の体験談を純正律音楽研究会正会員の廣川氏より寄稿いただきました。

ミントーンでオーケストラと一体感

音楽事務所MUSIC A おおた 廣川 深

東京大田区にある大田フィロハーモニー管弦楽団というアマチュアオーケストラがある。誕生してからまだ歴史は浅いが現在躍進中の新進気鋭のオーケストラである。昨年はモーツァルトのレクイエムで大田区内の合唱団と共演し、本年七月十六日には第1回定期演奏会を行った。プログラムはメンデルスゾーンのイタリア、グリーグのピアノ協奏曲、そしてアマチュアオーケでは演奏されること稀であるレスピーギのリユートのための古風な舞曲とアリア第2組曲である。このレスピーギの曲は編成にチェンバロが入っており、それを私が担当することになった。さてここで私は以前から気になっていたことがあった。それは学生時代オーケストラの中でピアノを弾いたときにはじま

る。(ピアノ協奏曲ではなく、あくまでもオーケストラの中の楽器として)そのときのピアノの音はなんとなくオーケストラからはみだしているような気がしたのである。ミの音が高い。後日、それはピアノが平均律であるからと気づく。オーケストラの楽器、とりわけ管楽器は基本的には自然倍音で鳴る楽器である。弦楽器にしても和声的には奏者は無意識のうちに純正音程で演奏しているはずだ。つまりオーケストラには平均律で鳴っている楽器はない。そこに平均律で調律された楽器を持つてくれば、溶け合わないのは当然である。特に管楽器の美しい純正3度に対して平均律の3度はなんと形容しがたい。チェンバロの音は、アンサンブルの中では完全にゼロビートでないとは自然に際立ってしまつて美しくないので。レスピーギの第2組曲は1楽章が二長調、2楽章がホ長調、3楽章はチェンバロはない

が、4楽章がまた二長調となつている。楽章ごとに調律替えをするわけにはいかないから純正律は使えない。二長調が#2つ、ホ長調が#4つ、これならミントーンが使える。というわけで自分の楽器を持たむことをいいことに、ミントーンの二長調で調律することにした。3和音が連続して現れる曲で、ミントーンは3度はその美しさを発揮した。オーケストラが生み出すハーモニーに完全に溶け込んだのである。演奏している私自身も立ち上がりの弦を弾く音しか聞かない。これでいいのだ。変に余韻がきこえるのはゼロビートでない証拠なのである。以前、平島達司著「ゼロビートの再発見」の中で、「チェンバロの通奏低音は聞こえないのが正しい」という記述を読んだが、今回それを痛感した。かくして予想以上の好結果を得ることができ、オーケストラとの一体感を味わつた次第である。

連続エッセイ 外科医のうたた寝 第十三話
農業の快樂

FOUR & HALF FARM V
純正律音楽研究会理事
福田六花(医学博士作曲家)

今から十年ほど前のこと、長野県の病院で患者さんから野菜を頂くことがあり、その美味しさにビックリしたことがあった。

トマトも胡瓜も茄子も甘く、ごく簡単に料理しただけで感動するような旨さである。プロの農家が出荷するものとは別に自分で食べるために無農薬で栽培した野菜の美味しさに憧れ、いつの日か自分で野菜を育ててみたいと夢に見ていた。

今年四月に河口湖畔に自宅が完成して引っ越し、まず最初にしたのは畑を作ることであった。僕の家は十年以上ほったらかしにしてあった畑に建っているが、庭の土は大きな石、小さな石をたくさん含んでとても硬い。五月の連休に遊びに来た友達にも手伝ってもらい、石をどけ四十センチの深さまでひたすら耕した。十畳程度の広さの畑を考えていたが結局半分の広さになってしまい、FOUR & HALF FARM (四畳半農園)と命名した。そこから先は専門家のアドヴァイスも貰つて、石灰を撒き、畝を作り、マルチシートを張つて五月下旬に十種類以上の野菜の苗を植えた。毎朝のジョギングから戻ると雑草を抜いたり、トマトの蔓を支柱に結わえ付けたり、如雨露で水を撒いたり約三十分の農業の時間である。

六月末から野菜がどんどん実り始めた。特に良く出来たのが茄子、ズッキーニ、ピーマン、ミニトマトで、カタチは悪いけれども甘く連日野菜料理に励んだ。食べ頃を逃がすと大きくなり過ぎるので、夏場は食べ続けるのが大変なほどであった。九月には秋野菜の植え付けを行い、来年の畑の計画に思いを巡らせて農業一年生の快樂は続く。



昨年より制作過程を会報でお知らせしておりましたCD「春へのあこがれ」ミートン・ハーブとヴァイオリンによる純正律でモーツァルトを」が完成し、六月三〇日発売となりました。この作品について、音楽学者野村満男氏にレビューをお願いしました。

《春へのあこがれ》CD評 野村 満男

過去、リラックス時のアルファ波（一九六九年）や、モーツァルト効果による知的能力向上（一九九三年）、脳の音処理分担野が西洋人と日本人では異なるという説（一九七八／九年）

戦前の歴史教育では小学唱歌が活用された。

等々は世間への影響力も大きかったが、いずれも確証が得られず、なかでも音楽人期待の一九九三年のモーツァルト効果は一九九九年、ネイチャー誌で否定されてしまった。しかし、次に挙げる不思議な音楽パワー（時には薬効）は万人が認める公理・定理と言える事実であり、CD評に先立ちまとめておきたい。その音楽パワーとは、

(一) 細胞が活性化。深川洋一著『タンパク質の音楽』（筑摩書房）によればタンパク質生成の過程で細胞が音楽的振動をしており、生物は外部から音振動を受けると細胞が共振し、酵母菌やトマト等植物の成育も著しいという。良質の音楽で乳牛は牛乳増産・・・等は経験則として旧聞に属する。

(二) 喜怒哀楽の情動を催す精神作用。史上、宗教、軍隊、メロドラマ等々この効果を活用してきた。それは「ことば」にもあるが、「ことば」は聴取努力が必要。通じない隠語や外国語は無力。音楽は無意識のうちにも影響する。近年、音楽によって

(三) 喜び哀楽の情動を催す精神作用。史上、宗教、軍隊、メロドラマ等々この効果を活用してきた。それは「ことば」にもあるが、「ことば」は聴取努力が必要。通じない隠語や外国語は無力。音楽は無意識のうちにも影響する。近年、音楽によって

認知症を軽快という報告も出て、

(四) 医療効果もありそう。青年期までに聴いた音楽で人生航路を決めた人もいるくらい音楽パワーは強力である。ただ、公理・定理を超える説は証明は難しく、珍説の類として討ち死にしやすい。音楽人間にはお人よしが多いが性格の悪い人もいるので、旧来の「音楽Ⅱ情操教育に役立つ」説はほとんど怪しい。

さて、ミートン・ハーブによるCD《春へのあこがれ》は上記パワーに関連している。美しい和音を聴いてゾクツとしたり、ホッとするようなことがあれば(一)の音楽パワーを受け、(三)(四)につながっていくであろう。モーツァルトが我が国で平均律といわれている「等分律」ではなく調和度の高い調律

法を用いたことは間違いない。「等分律」では何やら「ヒリヒリ、イライラ感」を与え薬効も低下しそうである。その「違いの分らない」人はかえって幸せかもしれない。今は国民総掛かりで美容と健康追求の時代だが、音楽パワーには気付いていないし、「芸術至上主義」集団には神からの贈り物Ⅱ音楽パワーを説く人は皆無である。それだけではない。子どもの集中力を高めた古来の美風「お稽古事」は、競争力アップこそがすべての「塾通い」に置換され、教育現場の音楽は飾り物教科として縮小され続けてきた。そろそろ音楽の重要性が説かれるべきだと思っただけに、《春へのあこがれ》には「ウンウン」と納得しているところである。しかし、気になるところもないわけではない。

まず、バッハでさえ《平均律クラヴィーア曲集》で脱出を図った「ミートンのくびきⅡウルフ5度」である。モーツァルトが果たして「鍵盤曲」でミートンを使ったのか？次に、「バ

スとい加減症候群」患者の多い日本人と違い重低音好きのドイツ語圏生まれのモーツァルトに、アイリッシュ・ハーブのバスでは力不足ではないかということ。しっかりした低音上に立ちこめる部分音に調和させた上声部が、感動的ハーモニーつまり高い薬効を生むからである。その他、

旋律に出る属七の第七音はもつと低めでいいのでは、とか、変奏曲や裏メロ、合いの手のロマーンチックな玉木節は、もつとウイーン古典派の装いがいいのでは、とか、やはりアイリッシュ・ハーブでは困難なのだろうが、例えばK. 331の主題第四小節目に出る典型的な四六の和音から属和音基本位置への進行は「緊張←弛緩」表現として後の和音は弱奏すべきであり、それに類するところが他にも：：：として何より研究会が純正和音を追求しながら純正律と限定したとき生じる「くびき」、例えばハ長調純正律によるレノラ間のウルフは「鍵盤曲」ではどうして

くれる：：：等々。
以上、いずれも無責任な第三

者の気楽な発言の側面もあろうかと承知しているが、上記音楽パワー布教実践音楽家へは畏敬の意を抱いていることも書き添えておきたい。

■■■■■■■■■■

野村満男さんプロフィール

旧満州国新京で少年時代を過ごす。戦後進駐した旧ソ連軍コザック兵の男声合唱を聴いて音楽に開眼。高知大学で理科、東京芸術大学で作曲を学ぶ。元東京都立芸術高等学校教諭、東邦音楽短期大学講師。作曲・編曲、楽器学、音律論研究、チェンバロ製作。主要訳著書・編曲に『チェンバロの保守と調律』（東京コレギウム）、『アンサンブル曲集』（フィオリ・ムジカーリ）Ⅰ・Ⅱ、《チェンバロ名曲選》 独逸編・奏法解説付Ⅰ（東京コレギウム）、《チェンバロ名曲選》西・伊・英・仏編（東京コレギウム）、ヘルマン・ケラー著『通

【著作紹介】

『古楽器研究2』

Mozartファミリーのクラヴィーア考

『チェンバロからピアノへ』

奏低音奏法』（全音楽譜）がある。チェンバロからピアノへ変遷する時代に生きたファミリーの書簡に頻出する用語「クラヴィーア」をめぐる、楽器学の領域から実体を考察。ウエル・テムペラメントのNグラフと調律法の解説が実際の分かり易く、ヨーロッパの音楽文化史が見えてくる一冊です。



野村満男著 東京コレギウム発行

バルト三国のことをご存知だろうか。バルト海沿岸に面し、北の方から、エストニア、ラトビア、リトアニアと続き、ロシア領の飛び地を経て、ポーランドとなる。一番北のエストニアはフィンランド湾をはさみ、フィンランドと向い合う。フィンランドの首都ヘルシンキとエストニアの首都タリンは丁度対岸の位置になり、もとも

と兄弟国のような関係、両国の言語は七〇%同じで、ソ連時代からエストニアはフィンランドの放送を通じて、一番西側の情報を知っていた。この三国は、強制的にソ連に組み込まれた悲劇の国としても有名だ。フィンランド語も、エストニア語も、フィン・ウイグル語族で、ラトビア、リトアニアの古代ゲルマン語系統とは全く違い、遠い親戚はハンガリー等と言われおり、元はモンゴル系だと言われているが、今や言語を除き、完全に白人化している。私の事務所の裏にあるスーパードレジを打っている女性はフィンランド人だが、髪の毛も体格も堂々としたロシア系に見える。最近、エストニアから来た力士がいて、名を把留都(バルトと読む)といい、九月場所から堂々十両で登場しているのだから、たぶん話題になるだろう。フィンランドには「カンテレ」という世界で一番余韻が長く純正律にとっても相性のいい、お琴のような民族楽器があるが、これはエストニアにもあるらしい。そういうことを含め、私はバルト三国が気になっ

て仕方がない。実はこの三国、合唱が盛んで、純正律系の作曲家や演奏家がたくさんいるのだ。バルト海を中心に、フィンランド、北欧三国、イギリス、オランダ、ポーランドと円環状に、純正律系の音楽があふれている。エストニアのアルヴォ・ペルト、ポーランドのグレッツキは有名だが、私が今一番親和性を感じるのは Georges Delcès というラトビアの作曲家である。何と読むかわからなかったが、「ペレーツィス」だと東海大の武田洋平助教から伺った。武田さんは珍しくラトビアに興味を持っておられる人で、NHKラジオでもペレーツィスの音楽を紹介なさっていた。ペレーツィスの音楽との出逢いは、ものすごくショッキングで、私は自分の作風までが変わってしまった。その曲はピアノと弦合奏のための「Concettino Banco」という曲で、3楽章全部、ハ長調だけで全く転調しない。こんな潔い、開き直りの曲は聴いたことがない。どちらかというかと私と作風が似ているといえなくもない吉松隆氏が、NHK FMでこの曲を紹介したときのコメントもたいへん面白く、やはり私同様にショックを受けたんだなということが実感できた。その後、あの「シンドラのリスト」でヴァイオリンを奏していた、有名なギドン・クレーメルの為に、ヴァイオリンとピアノと弦合奏のための「Nevertheless」を書いて

いるが、この曲のピアノ伴奏形は絶対に日本の古曲からの影響があるはずで、私はその音形を借りて、箏とヴァイオリンのために純正律の曲を書いたりしている。ペレーツィスは、一九四七年生まれで、同国人のチェリスト、ミッシェ・マイスキーの1年下で、モスクワ音楽院時代、同い年のクレーメルとはルームメイトだった。今回紹介するCDは私にとってペレーツィスの3曲目である。CDのタイトルは「KREMERLAND」。クレーメルのヴァイオリン演奏のためにバルト三国系の作曲家が7人集まってみんながアイディアを持ち寄った企画物のCDである。私も若いとき似たような企画を体験したが、なんとなく肩力が入るもので、このCDでもリストの編曲から、モーツァルトをジャズ風にしたりと、アイディア倒れのものが多い中で、ペレーツィスは敢然と我が道を行き、ほとんどワンコードのすばらしい曲で、タイトルも「Meeting with a Friend」。弦楽合奏とソロヴァイオリンの編成だが、全くお見事の言葉しかなく、曲の説明など言葉では書けない。クレーメルは軽々と早いフレーズを奏しているが、実はものすごく難しいということは想像がつく。日本盤も出ているし、ぜひ聴いてもらいたい。

純正律イベントレポート

「春へのあこがれ」完成記念コンサート「純正律でモーツァルトを」2005年7月8日(金)
近江楽堂(東京都新宿区)
報告

純正律音楽研究会監事 八木澤亨

コンサートは七時開演で約二時間。演奏は、高木真理子さんのアイリッシュハープと玉木氏のヴァイオリンの合奏をメインとしつつ、水野佐知香さんと玉木氏のデュオヴァイオリンも何曲か入りました。高木さんの御尊父・高田明洋さんも、一部の曲の演奏に参加されました。曲目はモーツァルトの作品が大半ですが、玉木氏の曲「ケルト幻影」などもあり。CDにも収録されている「白い予感」(ピアノソナタK. 331第1楽章より)や「戴冠式」(ピアノ協奏曲K. 537第2楽章より)、「春へのあこがれ」(歌曲K. 596)、アイランド民謡「庭の千草」、その他CDには入っていないもののデュオヴァイオリンの為に編曲された「交響曲40番」など、名曲の数々をとでも楽しく聴く事が出来ました。演奏の合

間には、水野さんと玉木氏によるトークや、ハープの調律に関する高田さんのお話もありました。近江楽堂は客席百程のとても音響の良いホールですが、一つ難を言わせて頂くなら、この音響の良さが災いし、トークの内容がやや聞き取りづらかった点が挙げられましょうか。

今の時代に聴かれる音楽の殆どは、オクターブを機械的に十二等分して得られる「平均律」という音律に則っています。この音律は転調に便利な反面、和音のハモリが蔑ろにされ、オクターブの整数倍を除く全ての音程が多かれ少なかれ狂わされています(特に長十度の狂いによる弊害は著しい)。これに対し、モーツァルトが愛好したと言われる「中全音律」(ミーントーン)では、長三度が完全にハモるように調整されており、完全五度が僅かに狭くなるものの、長調における和音の大半が純正律に近いよ



く澄んだ響きを生み出します。この中全音律に従って或る種のアイリッシュハープを調律する事に高田さんが最近成功され、CD「春へのあこがれ」の製作および今回のコンサートでの高木さんと玉木氏の共演につながりました。平均律では差の無い二種類の半音、短二度と増一度が大きく異なるのも中全音律の特徴で、そこでは前者(CとD♭の間隔)が後者(CとC#の間隔)に比べ著しく広くなっています。このため、慣れない最初のうちは中全音律によるメロディーの演奏に違和感を覚える向きもあるようですが、慣れるに従ってこれが正しい音程であると認識できるようになるようです。

●お客様のアンケートより

「それぞれ、お二人の息のあった響きはワンダフル!楽しく聴かせて戴きました。純正律の説明、アイリッシュハープの説明を入れて戴いてよかったです。ちょっと響きすぎて話が解らないことがあって残念でした。ラスト2曲は泣けてくるようなすばらしい曲でした。認知症の方々のこと、ホームページで見ました。納得できます。」

■2005年9月19日(月・祝)

「純正律をヴァイオリンとハープで、そして花火の夕べ」アタパラ・カフェ(静岡県熱海市)
出演 玉木宏樹(ヴァイオリン) 高木真理子(アイリッシュハープ)
熱海の高台にある素敵なカフェでのコンサート、無事終了しました。次号にてレポートします。